

希望を胸に236名が卒業

第 58 回

卒業証書授与式

平成21年3月3日

紫藤通信

三月三日、午前十時。本校体育館に学園讃歌が流れ、幕が開き、一組の生徒を先頭に卒業生の入場が始まった。八組が入場し、卒業生全員が揃い、例年にはない光景がそこにはあった。

それは、紺のジャケットを羽織った男子生徒が数多く見られた事だ。この学年は、普通コースの共学がスタートし、さまざまな行事で新しい風を吹きこんでいった。

卒業証書は、三年一組から一人一人名前が呼び上げられ、さまざまな思いを込めた返事が聞こえる中、クラスの代表が壇上に上がり校長から手渡された。次いで、山村学園理事長賞をはじめ、各賞が各個人に渡された。

その後、学校長式辞、理事長から贈る言葉、後援会長長むらさき会会長から、それぞれ温かい祝辞を戴いた。

在校生代表の送る言葉を生徒会長の永倉友樹(二年 葦原中)くんが述べ、卒業生代表感謝の言葉を中島浩希(三年 松山中)くんが途中涙で

声を詰まらせながら、最後まで諦めず指導してくれた先生に尊敬する両親、三年間を過ごした仲間達に感謝の思いを述べた。読み終えた後、卒業式では異例の拍手が起こり、涙をすすめる音が会場のあちこち

発行所 山村国際高等学校 坂戸市千代田1-2-23 049-281-0221 印刷所 望月印刷株式会社 http://homepage2.nifty.com/yamakoku/



で聞こえた。最後に仰げば尊しと校歌を歌い幕がおりた。卒業生の退場では、各クラスが本校恒例の呼びかけを行い、担任と一言挨拶をかわしながら教室に戻っていった。

各賞受賞者は次の通り。

- 山村学園理事長賞 安田 瞳(大東中)
学校長賞 石川 麻沙代(金子中)
後援会会長賞 渡邊 茜(東松山東中)
国際文化賞 齊藤 開(川越第一中)
山村要二記念賞 長谷川 純(山王中)
山村ふみよ記念賞 田中 千絵(榊台中)
日本私立中高連協会会長賞 金井 友加里(志木中)
埼玉県私立中高協会会長賞 田口 佳慶(毛呂山中)
産業教育振興中央会会長賞 安藤 成美(小川東中)
埼玉県産業教育振興会会長賞 新井 美菜(神川中)
体育協会会長賞 横山 ちさと(東松山東中)
大崎 啓介(浅羽野中)
三カ年皆勤賞(三十六名)代表 吉田 加奈(霞ヶ関西中)
山村学園創立者賞 西山様 野本様 細田様

蜻蛉

「日本国中何所を見渡したつで、輝いてる断面は一寸四方も無いぢやないか。悉く暗黒だ。」と語ったのは『それから』(明42) 主人公代助だった。もちろんこれは、漱石の眼に映った日露戦争の時代認識だったわけだが、ここだけを切り取って見れば、それは現在の私たちの時代観に通じる一面を有つていよう。今、私たちの社会はこれまで続けてきた繁栄の臨界点に近づいているかのようだ。だから、代助がさら語った「自分の事と、自分の今日の、只今の事より外に、何も考へてやしない」人事が横行しているのかもしれない。だが、このような時代の閉塞感に埋もれていてはならない。私たちは、そこを越えて、希望ある明日を掴まなければならぬはずだ。今春また、二四〇名ほどの卒業生が巣立っていった。確かな目標を胸にして。そんな彼らと、後に続くあなたたちに啄木の次の言葉を贈ろう。「一切の空想を峻拒して、其処に残る唯一の真実——『必要』!これ実に我々が未来に向って求むべき一切である。」(「時代閉塞の現状」明43) 大切なのは目標を有つことだ。

# 心に残る思い出を

送別会 二月二〇日

卒業式を目の前にした3年生は希望に満ちた輝きがあった。後輩からの拍手で体育館に入場した姿は、さすが3年生の貫禄があった。

生徒会長からは「こころに残る思い出を・・・」の願いを込めて準備を進めて来た挨拶があり、プログラム1番ダンス部から始まった。見ている人を楽しませてくれる踊りで、椅子に座っていても、体が自然に動いてしまうような軽快さが良かった。また、全校生徒と一緒に踊れるダンスもあり、人を惹き付けるダンス部の発表であった。

次はバトントワリング部であった。全国大会発表演技の披露は「さすが」迫力ある演技でありながらも、磨き上げられた洗練されたのもであった。3年生だけの演技は見応えがあり、衣装もすばらしかった。

休憩後、軽音楽部の発表は2年生の女子バンドであった。大いに盛り上がり、会場の熱気が上がった。その後、2年



生女子バンド、1年生男子バンドと会場が次第に歓声が高まり、心に焼き付く歌が送られた。

映画研究部の「遠い風景」シリーズも今年で10年目となった。出演者は個性派、演技派の山国ならではの先生方である。内容は毎年違うが、本校ならではのおもしろさやユニークな内容だった。先生方が3年生への思いを込めて、時間をぬって放課後に撮影し、中西監督（中西聖一教諭）は原稿制作から撮影、編集と一人で行った。また、生徒達の制作映画も、会場を和ませてくれ、本校特有の楽しい送別会へとなった。

放送部からは、3年生の入学式から、新入生研修・体育祭・文化祭・修学旅行など行事を中心にカメラが迫った映像を感慨深く思いながらも、懐かしさを込めた笑いが生まれた。長いと思った3年間はこんなにも短く感じた時は無



かった事だろう。

最後に教師と生徒のセッションバンドを3年生への思いを込めて披露した。山村国際高等学校の「温かさ」が凝縮した時だった。3年生の先生方が全員揃い、卒業生がこれからの人生が幸多いことを願う「乾杯」を歌い幕を閉じた。この思いを胸にしまい、これからの人生の糧になってもうればと願うばかりである。そして、人生の糧になってもらえればなによりである。

# ギターは弾かなきゃ音が出ない!



芸術鑑賞会 12月22日

12月22日本校体育館で寺内タケシとブルージョーンズの『ハイスクールコンサート』が実施された。オープニングではエレキの迫力に圧倒されながら、ダイヤモンドヘッドや君

つだけの花、さくらんぼ、などのヒットメドレーに生徒も大喜びの様子であった。また、曲の合間の寺内さんのトークは高校生に生きたる気力を伝えるように、自らの熱い思いを語り続け、生徒たちは真剣な眼差しで聞いていた。これまでに全国1433校でコンサートをやっており、これからもずっと続けていくと



何事にも一生懸命努力し、自分の信じた道をつき進む、そんな寺内さんの生き方に、何かを感じ取ったことだろう。昨年の劇団四季のミュージカルも感動したが、今年も本校でのナマのライブは、いつまでも生徒たちの心に残ることだろう。

## 校内弁論・スピーコン結果



11月28日

11月28日、校内弁論大会、スピーチコンテストが本校体育会で実施され、14名の発表者が熱弁をふるった。弁論では「人の心」についての作品内容が多かった。様々な場面での心の成長を独自の視点で捉えていた。スピーチコンテストでは、出場者4名という少数ではあったが、ハイレベルな語学力と主張が披露された。結果は次の通り。

若紫賞

武川 真蔵 (2年)

夕顔賞

眞木 香苗 (3年)

後援会長賞

松本 美穂 (1年)

国語科奨励賞

目黒 祐太 (2年)

Shining Star Prize

山崎 薫 (3年)

Eternal flame prize

小川はる菜 (1年)



# バトントワリング部

## 金賞に返り咲く

### 第36回 バトントワリング全国大会



第36回バトントワリング全国大会——昨年は「銀賞」に甘んじた悔しさをバネに練習に励み、見事「金賞」に返り咲いた。全国大会は今年1月23日(土)、千葉県の幕張メッセを会場に行なわれた。部長の川野なつみさんは1年生から選手としての出場経験をもつ。高校生最後の大会となる今大会へ賭ける気持ちは「金賞」へ向けての練習の厳しさにおいてもかがわれた。今年のチームは3年生6名、2年生2名、1年生5名の合計13名。1年生は全員が経験者であり、高いトワリング技術を持っている。テーマは「L……自由へ」完成度の高い競技に高得点をマークし7度目の金賞に輝いた。

また11月には県大会にて総合優勝し、7月に三重県で開催される全国高校総合文化祭への出場も決めた。

2月14、15日のバトントワリング選手権大会関東ブロックの結果は次の通り。

- 2 バトン 5位 柳沼 里佳
- 同 6位 佐藤 さつき
- ダンスツール 6位 山本 蓉加
- ソロツール 12位 柳沼 里佳
- 15位 新井 つぐみ

## 部活の動き

### 新人戦県大会 女子団体 初のベスト8

剣道

11月22日、高校剣道新人大会において女子が初のベスト8入りした。先の西部地区大会で3位になったため県大会の1回戦はシードとなり、2回戦から登場した。1年生から選手の主将小林真奈美さんが今大会では初の大将を務め、理想的なオーダーで臨むことができた。4回戦ではその小林さんが劇的な面で二本勝ちし、初の準々決勝に駒を進めた。準々決勝の相手はインターハイ出場の秩父農工高。先鋒と次鋒が負けて後のない中堅戦、1年生の山下真絵さんが上段の選手に対し鮮やかなすり上げ面で勝ち、後に望みをつないだ。しかし実力の差をみせつけられ、副将、大将が負けて敗退した。しかしながら、今後の活躍が期待できるチームである。

新人戦男子団体は3回戦でインターハイ出場の本庄第一高と対戦、1対1のまま迎え

た大将戦で一本負けを喫し、惜しくも敗退した。

### 西部支部 ベスト8

バレー

バレー1部大会成績  
〈西部支部1年生大会〉

- 1回戦 対坂戸西 2対1勝
- 2回戦 対山村学園 2対0勝
- 準々決勝 対狭山ヶ丘 0対2負
- ◆西部支部ベスト8進出
- 1回戦では3セット共ジュースという大接戦を勝利するなど、今後に期待できる内容であった。

〈西部支部秋季大会〉

- 2回戦 対川越西 2対0勝
- 3回戦 対所沢中央 0対2負
- 〈新人大会西部支部予選〉
- 2回戦 対川越西 2対0勝
- 3回戦 対狭山ヶ丘 0対2負

### 映画コンクール 入賞

映画研究

平成20年11月23日に行われた「第3回高校生映画コンクール」映画甲子園2008」表彰式において、本校映画研究部が制作・出品した作品「カパディ」が入賞した。また、

同24日の、ポリスチャンネル主催「第1回青少年非行防止自作ビデオコンクール」表彰式では、作品「はじめての一步」が優秀賞を受賞、2日連続の表彰であった。

### 会長賞受賞

写真

第三十七回私学文化祭写真真部門  
さいたま芸術文化祭埼玉県実行委員会  
会長賞 七理 仁美(高階中)

### 平成20年度 サッカー部活動報告

サッカー

学校総合体育大会兼高校総体  
西部地区予選  
4月26日 1回戦  
対 筑波大坂戸 9-0 勝  
5月3日 2回戦  
対 所 沢 2-3 負  
第87回全国高校選手権埼玉大会1次予選  
8月24日 1回戦  
対 三郷工技 0-1 負  
西部地区秋季大会  
9月21日 1回戦  
対 自由の森 2-1 勝  
9月23日 2回戦

対 志 木 0-1 負  
9月27日 3位決定戦  
対 和光国際 2-0 勝  
西部地区新人戦1次予選  
11月15日 対 豊 岡

2-1 勝  
11月22日 対 和 光

7-1 勝  
11月23日 対 飯能南

2-4 負 予選2位通過  
西部地区新人戦決勝トーナメント

12月20日 対 狭山清陵

5-1 勝  
12月21日 対 西武台

0-6 負西部地区ベスト16  
U-16リーグ戦(前期)

対 立教新座 1-0 勝  
対 所 沢 北 1-0 勝

対 坂 戸 西 4-0 勝  
対 西武文理 0-5 負

3勝1敗  
U-16リーグ戦(後期)

対 埼玉平成 0-2 負  
対 川 越 東 2-0 勝

対 坂 戸 3-0 勝  
2勝1敗

U-17リーグ戦  
対 西武文理 2-5 負

対 城西川越 4-0 勝  
対 所 沢 2-3 負

対 大 井 1-2 負  
対 川 越 西 2-0 勝

2勝3敗

### 展覧会で高評価

書道

第四十七回埼玉県硬筆中央展覧会

特選賞 水嶋真代(宗岡中)

優良賞 鹿山祐樹(川島中)・坂脇由真(福原中)・志村梨絵(福原中)・福島静江(東松山中)・内田有香(福岡中)

埼玉県民芸術文化祭2008  
第十三回埼玉県書道芸術展

埼玉新聞社賞 水嶋真代(宗岡中)  
推薦賞 小川沙也香(野田中)・福島静江(東松山中)

特選賞 坂脇由真(福原中)  
志村梨絵(福原中)

準特選賞 林 愛喜(砂中)  
第三十七回私学文化祭作品展 書道部門

埼玉県私立中学高等学校協会事務局賞 小川沙也香(野田中)

第六十一回埼玉県書き初め中央展覧会

特選賞 水嶋真代(宗岡中)  
福島静江(東松山中)

優良賞 林 愛喜(砂中)  
坂脇由真(福原中)

志村梨絵(福原中)



小川沙也香

### 第一位に輝く

福祉

ヴァイオレット・リチャードソン賞 国際ソロプチミスト

アメリカ東日本リジョン賞  
2位 小澤 里沙(吉見中)

国際ソロプチミスト埼玉 2008 ヴァイオレット・リチャードソン賞

1位 中村 理沙(蕨富見中)

3位 佐藤友希乃(小川西中)

3位 稲村 香織(東松山中)

### 銀賞を受賞

吹奏楽

第15回下倉楽器ソロコンテスト(2月14日)

銀賞 田口 瑞姫

銅賞 BQ 半井 桃香

第32回埼玉県アンサンブルコンテスト  
打楽器三重奏出場  
西部地区高校音楽祭出場

### 感謝状 三部活に

12月24日、吹奏楽団・バト

ントワリング部・福祉部は、埼玉県立嵐山郷を訪問し、クリスマスコンサートをおこなった。また今回、間接的に調理部がクリスマスプレゼント作りに参加してくれた。

本年度で20回目となるこのコンサートに対し、嵐山郷より感謝状が贈呈された。ひと口に20回目といっても20年間継続しておこなっている本校の伝統的な活動になっている。これまで多くの卒業生がこの活動に参加して様々なことを感じ、そして将来に役立ててくれている。

今年度参加してくれた各部署活動の部員たちも本当の意味の福祉活動を実感してくれていた。この場を借りて、吹奏楽団、バトントワリング部、福祉部の部員諸君に感謝したい。



大学合格に重点を置いたシステムに成果

# 進学実績、大きく躍進!

国公立大学

埼玉(2)・防衛・電通・山口・前橋工科

私立大学

早稲田・明治・青山学院・立教・法政(6)・津田塾(3)  
東京理科・成蹊・芝浦工(2)・日本(4)・東洋(8)  
東京電機(10)・専修 など多数

## 進路状況

平成20年度卒業生の進路状況は、3月6日現在で、大学126・短大55・専門学校57・就職4・留学1という合格数となっている。詳しく合格先や各校の人数については、放送室前の廊下掲げ板を見て欲しい。

## 大学

今年度の卒業生が入学した3年前に、大学合格に重点を置いたシステムを導入したが、その成果が確実に出てきている。現時点では、国公立大学一般受験の発表日前というところ、私大の結果が出そろっていないために、それらの結

果は未定ではあるが、国公立大学は、埼玉大学及び防衛大学校の合格者が出ている。私立大学においては、早稲田大学・明治大学・青山学院大学・立教大学・法政大学・津田塾大学など難関上位校に多数合格している。また、進路指導部が掲げている『偏差値55以上の学力』に見合った上位校にも過去最多の合格者が出ている。今年このような躍進を遂げた理由の一つに、理系の

生徒の活躍があげられる。青山学院大学・芝浦工業大学・成蹊大学・東京理科大学・法政大学・日本大学・埼玉医科

大学などで複数名が合格した。もう一つの理由は、特進クラス以外の生徒の頑張りである。

大東文化大学8名・東京電機大学6名・東洋大学6名・東家政大学3名・埼玉医科大(看護)2名を始め、立教大学・東京理科大学・女子栄養大学実践栄養学科(管理栄養士養成)・東部医療大学(看護)・西武文理大学(看護)などに合格している。

今年度入試方法としては、指定校推薦57名・公募推薦12名・AO入試11名で、その他は一般入試に挑戦している。

## 短期大学

昨年度に引き続き、山村学園短期大学への合格者が、保

育学科13名・コミュニケーション学科9名、合わせて22名と約半数を占めている。山村

学園短大の魅力は、就職率の高いことと合わせて、検定料と入学金の免除という経済的な特典(コミュニケーション学科では高校での成績によって授業料も免除になる)ということが大きい。他短大では、食物栄養系へ7名・保育幼児教育系へ4名・医療看護系へ3名などとなっている。

短大の受験方法は、圧倒的に指定校推薦が多く、38名がこの方法で合格している。次に、近年増加傾向にあるAO入試で10名となった。

以上の数字からも分かるように、短大進学者は進学先で就職に役立つ資格が取得できる学校や就職率の良い学校を選んでいる。単に教養のためとか、就職には早いので、という安易な進学者はほとんどいないのが本校の短大進学の実状である。

### 専門学校

専門学校への進学者数は、

ここ数年ほとんど変化が見られない。進学者数の多い分野としては、美容系16名・看護医療系11名・ファッションデザイン系8名と人気が集中している。また、今年は機械・自動車関係や動物関係への進学者も増加した。

専門学校の受験方法は、指定校推薦が11名・公募制推薦が20名・AO入試が18名・自己推薦3名となっており、自分の力を前面に出してフル活用し、合格を勝ち取っているということが分かる。そもそも専門学校は、資格の取得やキャリアアップのために進学するわけだが、近年の特徴としては、看護医療系への進学者が増加傾向にあることと、美容系ではトータルビューテ

### 今年度の進学全般

1系が人気といえるようだ。

短大・専門学校希望者は、

早い時期から志望分野を決めて、学校見学や説明会へ積極的に参加していた。また、説明会への参加も複数校を複数回という生徒が多く、将来を見据えた進路選択が出来ていたように思う。短大や専門学校進学者の中には、好成績の生徒も多数おり、指導部としては、「大学を受験してくれば・・・」と思った。

大学進学者については、二極化が顕著になった年で、AOや推薦での受験を考えて学校を絞った生徒と、一般受験で最後まで粘ってよりレベルの高い学校を狙った生徒に分かれた。前者の中には、高校での評定値をあげて、よりハイレベルな学校に挑戦した生

徒がいる一方、現状で合格する学校を志望校にするという一部ではあるがそんな生徒も見られたことが残念だった。後者については、最後まで本当によく頑張ってくれて、これまででない好結果が期待できそうである。

「もっと早くから始めていれば良かった。」この言葉が、今年も聞かれた。一般受験で納得の行く結果を残すためには、少なくとも1年以上前から受験勉強が必要であろう。2年生には、すでにセンター試験まで約10ヶ月となっている。

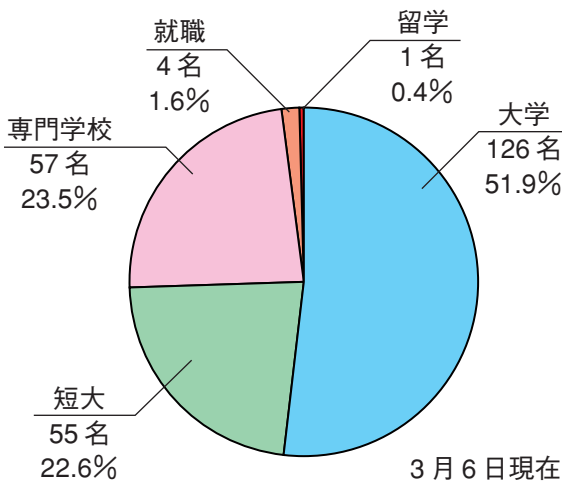
### 就職

近年、就職を取り巻く環境は、産業・経済の構造的変化や雇用の多様性、また昨年の米国金融危機のあたりを受け、将来への不透明さが増すと共

に大きく変化している。その様な中、本校の就職活動は、『第一希望の企業に内定する』という目標のもとに、3学年からは、放課後の学習会をかね就職に備えてきた。夏休み中には職場見学を行い、9月以降の選考会に臨んでいる。その結果、販売1名、サービス3名、計4名の就職が内定した。2月末現在、全国では263名の内定取り消しが生じて

いるが、本校では幸いにも該当者はいない。  
なお今年の求人総数は、事務15件、販売38件、サービス176件、製造68件、運輸11件、総計308件であった。昨年と比較すると減少傾向であり、新年度はさらに厳しさが増すと思われる。就職にあたっては、気持ちを引き締め主体的に取り組んで欲しい。

進路状況グラフ



# 活躍する 卒業生

この度はお陰様で、織田ファッション専門学校主催のFDCにてオーディエンス賞と佳作賞を頂きました。

私は自然の美しさに最も魅力を感じ、地球の恵みを作品として表現したいと考え、前回は「珊瑚礁」でしたので、今回は「潮風」をテーマに制作しました。

旅行先で見たいつまでも心に舞う水しぶき……そこにふく潮風を表現しました。

潮の香りが今にも漂ってきそうな微妙な色合に布を染め、迫力を増して迫ってくる波によって煌めく水しぶきをスワロフスキーとビーズで表現。

美しき幻想的な海の風景を潮風というテーマで制作しました。  
三宮 薫（17年卒）



# 第14回 卒業作品展

ファッションデザインコース

今回で第14回を迎える三年生ファッションデザインコースによる卒業作品展が、二月十八日・十九日と校内で行なわれた。作品一つ一つにこめられた、それぞれの生徒の努力の成果である。展示設営を

しながらも、思い出し完成した時の達成感を再び感じた事だろう。クラス団結をモットーとしてやってきた生徒達。しかし、作品作りでは皆ライバル……そんな気持ちがある作品に結びついているのだろう。前日の準備では、全員遅くまで会場の設営にあたった。ファッション

コースにとっては、紫藤祭でのファッションショーと共に大事な行事である。当日は、先生方、在校生、保護者、卒業生等多くの方々に足を運んでいただいた。心のこもったメッセージを頂き、輝いた生徒達の顔がそこにあつた。ファッションコースで学んだ事を誇りに思い、今後の期待を後輩に託した。熱い思いで二年間過ごした生徒達……伝統あるファッションコースの発展を願わずにはいられない。

しながらも、思い出し完成した時の達成感を再び感じた事だろう。クラス団結をモットーとしてやってきた生徒達。しかし、作品作りでは皆ライバル……そんな気持ちがある作品に結びついているのだろう。前日の準備では、全員遅くまで会場の設営にあたった。ファッション

